

## 「パートナーシップ構築宣言」

当社は、サプライチェーンの取引先の皆様や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築するため、以下の項目に重点的に取り組むことを宣言します。

### 1. サプライチェーン全体の共存共栄と規模・系列等を超えた新たな連携

直接の取引先を通じてその先の取引先に働きかける（「Tier N」から「Tier N+1」へ）ことにより、サプライチェーン全体での付加価値向上に取り組むとともに、既存の取引関係や企業規模等を超えた連携により、取引先との共存共栄の構築を目指します。その際、災害時等の事業継続や働き方改革の観点から、取引先へのBCP（事業継続計画）策定の助言等の支援も進めます。

（個別項目）

- a. 企業間の連携（オープンイノベーション、M&A等の事業承継支援 等）
  - 取引先との市場動向・情報データを共有することで、サプライチェーンの効率化を推進し、販売促進等に取り組み相互の成長と発展につなげる。
  - 地元漁業関係者とのパートナーシップを構築し、新鮮で安全な地元の食材を使った水産加工製品を提供する。
- b. IT実装支援（共通EDIの構築、データの相互利用、IT人材の育成支援、サイバーセキュリティ対策の助言・支援 等）
  - 電子商取引の利用を推進し、取引先の業務効率化を支援する。
  - ITに強い人材を育成し、取引先とのコミュニケーションを円滑に図る。
- c. 専門人材マッチング
  - 業況や必要により自社と取引先で人材を相互協力し、製品の品質や安全性を守る。
- d. グリーン化の取組（脱・低炭素化技術の共同開発、省エネ診断に係る助言・支援、生産工程等の脱・低炭素化、グリーン調達 等）
  - 関連する企業間におけるCO2排出量削減に取り組み、脱炭素社会を目指す。
  - 従来は買い手が付かなくて廃棄される事の多かった規格外材料等についても、積極的な買い付けや有効活用に取り組み、自然環境の保護に努める。

## 2. 「振興基準」の遵守

売り手事業者と買い手事業者との望ましい取引慣行（下請中小企業振興法に基づく「振興基準」）を遵守し、取引先とのパートナーシップ構築の妨げとなる取引慣行や商慣行の是正に積極的に取り組みます。

### ① 価格決定方法

不合理な原価低減要請を行いません。取引対価の決定に当たっては、下請事業者と少なくとも年に1回以上の協議を行うとともに、下請事業者の適正な利益を含み、下請事業者における労働条件の改善が可能となるよう、十分に協議して決定します。その際、「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」に掲げられた行動を適切にとった上で決定します。また、原材料費やエネルギーコストの高騰があった場合には、適切なコスト増加分の全額転嫁を目指します。なお、取引対価の決定を含め契約に当たっては、契約条件の書面等による明示・交付を行います。

### ② 支払条件

下請代金は原則として、全て月末締め翌月末現金で支払います。

### ③ 知的財産・ノウハウ

「知的財産取引に関するガイドライン」に掲げられている「基本的な考え方」や、「契約書ひな形」を踏まえて取引を行い、片務的な秘密保持契約の締結、取引上の立場を利用したノウハウの開示や知的財産権の無償譲渡などは求めません。

### ④ 働き方改革等に伴うしわ寄せ

取引先も働き方改革に対応できるよう、取引先事業者に対して、適正なコスト負担を伴わない短納期発注等を行いません。災害時等においては、取引事業者に一方的な負担を押し付けないように注意すると共に、事業再開時等には可能な限り取引関係の継続等に配慮します。

2025年3月17日

株式会社 魚栄  
企 業 名

代表取締役 榮 厚資  
役職・氏名（代表権を有する者）